

# 第3回私の代表作展

開催中～2020年11月中旬

ホキ美術館でしか観られない作品たち

「私の代表作展」は、写実絵画を専門に扱うホキ美術館で長期に渡って開催される展覧会だ。3年に一度現存作家の新作が飾られ、展示室は一新される。この展覧会の作品を手がけるのは同美術館のコレクションを代表する14、15人の画家たち。約50人の作家から選抜し、100号以上の大きさに限定した作品の制作を直接画家に依頼する。2017年には開館後二度目の展示替えがおこなわれ、今回は若手作家も加わった。9つあるギャラリーの中で唯一壁が黒色の展示室であるギャラリー8が会場。1作品につきガラスのパーテーションで区切られた6メートルもの空間が与えられる。画家は自由なテーマで制作をおこなうが、ホキ美術館の展示室を考えた上で作品を制作したり、いつもとは違う題材で実験的な絵を描いたりしているようだ。こうした制作ができる



島村信之《夢の箱》2017年

塩谷亮《月洗》2017年

るのは、作家にとって非常に貴重な機会だと言えるだろう。そして生まれた大作は、まさにこの美術館でしか観られない作品たちなのである。

2017年11月には出展作家7名（石黒賢一郎、大畑稔浩、五味文彦、塩谷亮、島村信之、野田弘志、藤田貴也）によるギャラリートークが開催され、画家たちは作品の前で制作ストーリーや思いなどを語った。島村信之の『夢の箱』は、100号のキャンバスに描かれた巨大な昆虫の標本箱。普段は人物画を描くことが多いが、今回の展覧会に向けて描いたのは、画家が趣味で夢中になっているクワガタ。島村自身が全国から集めた昆虫がリアルに描かれている。また、塩谷亮の『月洗』は、観る者に「写実」という意味を再考させる作品。家の近くで観た竹林を表現しているが、見たままを表す写実ではなく、

